

林野行政関係者による教材研究－1対の写真を通して

## 日本の緑を守り，安全で安心な生活を守る

作成：土居隆行（どい たかゆき／林野庁 森林整備部 治山課 治山対策官）\*

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）\*\*

**語り：**「下の写真は，山に土がむき出しとなっていて，コンクリートのダムがたくさんあります。これは，山崩れがあった場所に，<sup>ちさん</sup>治山事業により，緑を回復するための工事を行ったものです。治山事業は都道府県や国が行っていて，このような事業を公共事業といいます。では，なぜこのような工事を行うのでしょうか？

森林は，表土が落葉などで覆われ，土砂が流れ出るのを防ぐほか，樹木の根が土を締め固めることで，山崩れを起きにくくする働きがあります。そして，森林が作り出す土壌は落葉などでスポンジのようになって，草や木が生えていない土地と

比べ，雨水をすみやかに地中に浸透させ，蓄える働きがあります。

日本は大変雨が多く，梅雨や台風の時期に雨が集中します。また，最近は局地的な豪雨が増加しているというデータもあり，ときには，1時間に100ミリを超える，恐怖を感じるような猛烈な雨が降ることもあります。山崩れの跡地をそのまま放っておくと，雨が直接地面に当たり，土砂や雨水がどんどん流れ出てしまいます。大雨が降れば，再び山崩れが起こる危険があります。そうすれば，周辺に住んでいる人たちの暮らしは危険なままで，安全な生活を送ることができません。



▲山崩れ跡地の復旧工事直後の様子（香川県小豆島）

\* 土居…〒100-8952 東京都千代田区霞が関1-2-1 Tel 03-6744-2308（ダイヤルイン）

このようなことから、山崩れが起きた場所には、コンクリートのダムで土砂が動かないように安定させ、山の基盤を強くして崩れにくくしたうえで、木を植えるなどにより、森林を元どおりに戻すため、左ページの写真のような工事が行われているのです。また、山崩れが起きる危険が高い箇所でも、予防的に治山事業で工事が行われます。

下の写真は、左ページの写真の場所で12年後に撮影したものです。山肌がむき出しになっている所は全くなく、コンクリートも含めて、緑で覆われています。

緑豊かな森林を復元するため、写真のような工事が必要であり、森林のいろいろな働きを通じて、安全な生活が守られています。

**意図（土居）：**国民の豊かな生活の基盤となるインフラの整備や、安全で安心な生活を守る防災施設の整備は、なくてはならないものである。また、森林が7割を占めるわが国では、昔から、災害の防止に森林の役割が認められてきた。公共事業という点、最近ではすべてがムダであると扱われがちであるが、森林を保全し住民の安全・安心を確保する治山事業について、実際にどのような目的で、どのようなことを行っているかを1対（2枚）の写真を通じて説明することで、正しく、公共事業の是非を考えてもらうきっかけになればと考えた。

**寸評（山下）：**小学校の社会科における森林資源の学習では、「森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力」に目を向けることになっている。今回、教材として取り上げられた治山事業は、「森林資源の働き」と「森林資源の育成と保護」を結びつけるよい事例である。そして、この写真教材は、治山の具体的な姿を子どもたちにイメージさせるうえで、とても有効なものになると思われる。



▲ 12年後の同じ場所（香川県小豆島）